

研究の概要

2024 年 8 月 1 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報などを研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名：	胚移植方法（新鮮胚移植/自然周期凍結融解胚移植/ホルモン補充周期凍結融解胚移植）が流産・周産期異常の発生に与える影響
代表研究者 （所属・氏名）：	IVF 大阪クリニック （生殖技術部門・松本寛史）
研究の目的：	胚移植方法（新鮮胚移植、自然周期凍結融解胚移植、ホルモン補充周期凍結融解胚移植）が流産・周産期異常の発生に及ぼす影響の解明を目的とする。
研究の方法 （使用する試料/情報等）	利用する情報 電子カルテおよび体外受精管理システム、各種検査管理システムに記載のある過去の診療記録、検査データを利用する。流産および周産期異常(癒着胎盤、前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剝離、弛緩出血、子宮破裂、羊水塞栓、母体輸血、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群)について、それらの発生頻度が胚移植方法によって異なるかを単変量解析および多変量解析によって調査する。
研究対象者	IVF 大阪クリニック・IVF なんばクリニック・HORAC グランフロント大阪クリニックにて 2015 年から 2022 年に新鮮胚移植、自然周期凍結融解胚移植、ホルモン補充周期凍結融解胚移植を受けられた方。
個人情報の取り扱い：	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会・専門誌等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）：	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：IVF 大阪クリニック 06-4308-8824（代表） 生殖技術部門・松本寛史